

令和4年度 第3回 河輪小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和4年11月 1日（火） 13時30分から15時40分まで
- 2 開催場所 河輪小学校 1階会議室
- 3 出席委員 鈴木大介、渋谷德行、太田尚吾、藤田正治、藤田沙奈江、間宮年弘
中村健二
- 4 欠席委員 島津真理子
- 5 学 校 太田賀子（校長）、宮崎正昭（教頭）、櫻井伸夫（教務主任）、
鈴木江利子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 大村直弘（健康安全課） 鈴木陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 協議事項
（1）議長の選出について
（2）4月～10月のコミュニティ・スクールの取組
（3）児童の学力等の実態と学力向上に向けた取組
（4）学校在校時の南海トラフ自身発生時の児童の避難方法について
- 9 教育総務課より
- 10 会議録作成者 CSディレクター 鈴木江利子
- 11 会議記録

司会から、委員7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）議長の選出について

司会が議長の選出について委員に意見を求めたところ、委員から会長を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

（2）令和4年度4月～10月コミュニティ・スクールの取組

教務主任から、別紙資料に基づきコミュニティ・スクールの取組について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 写真の活動から学校の特徴がよく分かる。天竜川に近く農業が行われている地域の特性を活用している。（渋谷委員）
- ・ 朝の登校時、交通安全ボランティアとして自分自身が楽しくやっている。子供たちを見守っている。自分から進んで挨拶できる子と、こちらが言うと挨拶をする子といる。（太田委員）
- ・ 写真にあったような活動は地域の人々も楽しみに参加している。高齢者ばかりになってしまっている。しかし、過去に通学路に草が伸び、蛇か何かに驚いて道路に飛び出した児童が死亡する悲しい事故があった。二度と繰り返してはいけないと思うから通学路の環境を

整えていきたい。(藤田正治委員)

- ・ 今後も地域人材の紹介を進めていきたい。運動会や学習発表会などの行事が以前の形に戻りつつあることが分かり良かった。児童のコミュニケーション能力を高めたい(間宮委員)
- ・ クラブ活動が5回という限度がある中で、子供たちは回を重ねるごとに上達している。一生懸命取り組んでいるからだと思う。また、できるようになったことを小さなことでも褒める。褒めることで意欲が高まると思う。(藤田沙奈江委員)
- ・ 写真で子供たちの活動の様子を紹介してもらい大変よかった。コロナ禍で学校での子供の様子を見る機会が少ないので有難い。地域の方が様々な活動をされているので、PTAも会員に呼び掛けて、ミシンボランティアや読み聞かせ以外にも取組を増やしたい。(中村委員)

(3) 児童の学力等の実態と学力向上に向けた取組

教務主任より、別紙資料に基づいて説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・ 6年生の全国学力・学習調査結果の状況が説明されたが、点数は参考程度に考えたらよいと思う。過去問の練習で得点を上げて力がついたことにはならないので、子供の将来を見据えて、長い目で見た方がよいのではないか。スマホやゲームの時間が長いことが課題だと思われる。それには保護者の家庭生活の見直しも必要かと思う。(間宮委員)
- ・ 現在の子供たちの生活をお伝えしたい。大体16時頃帰宅し17時頃までは宿題をする。コロナ禍で友達と家を行き来することを控えているので、時間を17時半と約束しそこで通信ができるゲームで友達と関わる。会話をするのでコミュニケーションができる。時間の長さだけではない友達と関わる大切な時間となっている。(中村委員)
- ・ ゲームやスマホを使うことで身についた力は、現代の仕事は、リモートや海外に行かずにテレビ会議ということがある。コミュニケーションツールとして将来必要な力となると思われる。(藤田正治委員)
- ・ 学力の漢字を書く力が挙がっていたが、漢字を何回も書くのは苦手な子がいる。書道の筆で絵を描く経験をしたり、書道の専門家が書くところを実際に見たりするなど感動体験が必要。感動が子供たちの意欲を高めることがあると思う。(渋谷委員)
- ・ 低学年は毎日の書き取りが力をつけることがある。高学年は課題の出し方に工夫が必要。覚えることが大事なので、覚えることを目標としてその後の漢字テストで判断するのもよいと思う。(間宮委員)
- ・ 校内でも覚えるための取組をしているので、効果がある方法を職員に広めていきたい。(教務主任)
- ・ お母さん方と話す機会があるが、子供は宿題がないと学習をしないので保護者としては宿題を出してほしい。子供に「お母さん算数教えて。」と言われると親としても嬉しい。そして親子が関わる時間にもなるので大切な時間だと思う。(藤田沙奈江委員)
- ・ 自分は子供の頃、読書が好きではなかったが、今は毎晩1～2時間読書をしている。小学生の今だけで決めつけなくてよいと思う。(太田委員)
- ・ 教員は漫然と宿題を出していたという部分もあるので、子供たちが自分で考えて学習を進めていけるように教員が考え、工夫する必要があると思う。(校長)

(4) 学校在学時の南海トラフ地震発生時の児童の避難方法について

別紙資料参照

- ・ 学区は南海トラフ地震の場合、震度7と予測されているので、河輪小の地域はひどい横揺れで落下物が多いと予想される。給食室・家庭科室・理科室等からの火災が考えられる。津波警報の場合は3階・4階へ避難。地域の人々が避難してくることも考えなければならぬ。地域の方々の協力を得ながら誘導することが必要となる。児童が避難後に保護者へ引き渡しとなれば迎えに来る動線も考えなければならない。(大村指導主事)

大村指導主事より、別紙資料に基づいて説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・ 避難時の誘導に関して、河輪小の前にあるということでJAの職員3人の方に協力してくれるもらえるという承諾を得ている。学校との協定が必要な場合がある。(会長)
- ・ 三新町は避難タワーがあり、自宅の2階も考えている。河輪小は液状化が考えられるし、消防団・水防団の人は勤務で地元には不在という時間帯があることを考えておかなければならない。(藤田沙奈江委員)
- ・ 河輪上は「やなぎマンション」「矢崎」を災害時に避難できるよう依頼してある。河輪下南は河輪小に避難と決まっているので学校に避難してくる人々がいると予想される。(渋谷委員)
- ・ コロナ禍で防災訓練ができていない。地域・町内・自治会が訓練を通して災害時の行動を地域の人々に認知させる必要がある。避難タワー・命山は短時間で避難できる。避難時に体育館は板の間で過ごすことになるので、滞在するための環境を整える必要がある。(太田委員)
- ・ 避難時は校内であっても土足でよいと思う。(間宮委員)
- ・ 以前関わった時に、小学生は「お・は・し・も」の避難訓練の成果が感じられた。(藤田沙奈江委員)
- ・ 数年前に長期の停電があった。水害についても水路や川があるなど地域によって違いがある。地域の対応として、昼は高齢者のみとなってしまうので、中高生に訓練をして地域の人々にとって頼りとなることを期待したい。(太田委員)
- ・ 学校周辺の企業に防災のための応援が依頼できたらよいと思う。助けていただくという気持ちでお願いしたらどうか。(渋谷委員)
- ・ 近隣で助け合うという気持ちが必要だと思う。(太田委員)
- ・ 災害時の避難誘導に必要な人数を検討、地域住民にも避難する際に必要なことを知らせなければいけない。(会長)
- ・ 学校で児童引き渡しをする際は、一方通行や町別に待機するなど検討したい。(校長)
- ・ 災害時、子供はパニックになっているだろうから、確実に引き渡しのチェックをする必要がある。(渋谷委員)
- ・ 災害時に必要な内容はさくら連絡網を活用し、訓練で確認していきたいと思う。(校長)
- ・ 災害時在宅避難が考えられるので、学校に避難するのは河輪小周辺に勤務する人達が考えられる。マニュアルが決まっていれば、誰が来ても対応できると思われる。引き渡し時、震度5ならば保護者は自動車で来校する可能性が高い。子供が町別で待機していると短時間で引き渡しができる。(大村指導主事)

- ・ メディアの発信の仕方によって、住民があおられ、パニックを引き起こすので慎重に情報提供してほしい。(渋谷委員)
- ・ 河輪小ではハザードマップを活用されているが、最悪の状況を防ぐ努力をしたい。(大村指導主事)

(5) 教育総務課より

- ・ 地域の方々が長年にわたって学校に御協力いただいていることがよく分かる熟議だった。感謝申し上げます。地域特性をつかんだ協力がされており、調査結果を共有し、これからの河輪小児童をどのように育てていくか熱心に熟議されたと思う。

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和5年 2月22日(水)午前9時00分から1階会議室で開催する旨の報告があった。